

平成28年度

住民・議会 意見交換会報告書

地区	月 日	会 場	参加者	議 員 (先頭が班長)
吉島	8月18日(木)	吉島地区交流センター	11人	高橋照夫、金子一郎、高梨勇吉、齋藤修一、遠藤章一、神村建二、鈴木幸廣
東沢	8月18日(木)	東沢活性化センター	25人	加藤俊一、佐々木賢一、淀 秀夫、斉藤智志、橋本欣一、鈴木清左衛門、伊藤進、伊藤寿郎
玉庭	8月19日(金)	玉庭地区交流センター	22人	高橋照夫、金子一郎、高梨勇吉、齋藤修一、遠藤章一、神村建二、鈴木幸廣
犬川	8月19日(金)	犬川地区交流センター	7人	加藤俊一、佐々木賢一、淀 秀夫、斉藤智志、橋本欣一、鈴木清左衛門、伊藤進、伊藤寿郎

質疑・要望・意見など	質疑への回答・今後の対応など
<p>人口減少対策について</p> <p>1、若者定住移住促進対策について</p> <p>○若者定住の施策にストーリー性がない。町と地区の役割がはっきりしていない。</p> <p>○若者が必要とする町の姿を見据えるため、アンケートを実施してはどうか。</p> <p>○転出抑制策は十分か。</p> <p>○米沢市から川西町に来たが、良い町だと思う。若者が定着しないのは暮らしやすい環境がない（買物が不便など）ためではないか。</p> <p>○子どもが地元定着をしないで町外へ行くのは、家庭の教育次第ではないか。</p> <p>○若者の運転免許費用や車購入費用の支援はできないか。</p> <p>○青年層の定住について、男女のバランスが悪い。定住対策について聞きたい。</p> <p>○人口減少は非常に心配である。町の中心部小松が空洞化しているのではないか。病院周辺の開発もよいが、町の中心部に求心力が必要である。地域づくりが進んでいる川西町といわれているが、人がいなければ町は消滅する。先が見える具体策を実行してほしい。</p> <p>○若者の意見を聞く場はあるか。</p> <p>○若者が結婚できるような取り組みが大事ではないか。</p>	<p>●町と地区の役割があるが、町全体としての対策が弱いと感じている。</p> <p>●アンケート調査は実施している。</p> <p>●十分だとは思っていないが、各事業の成果を期待している。</p> <p>●意見として承る</p> <p>●家庭教育は住民の協力が必要である。</p> <p>●教育総務課町では郷土愛の育成を掲げ、地域を知る活動や伝統文化を知る学習に取り組み、地域行事に積極的に参加させ、地域の良さを知る活動に取り組んでいる。</p> <p>●意見として承る</p> <p>●具体的な対策をしっかりとすれば、定住してもらえるのではないか。公立置賜総合病院には約1000人が就労しているが、川西町居住者は約60人程度である。病院周辺の開発に期待している。</p> <p>●意見として承る</p> <p>●町のホームページに川西町の暮らしやすさが掲載されている。アンケートを提出できるので反映させてはどうか。</p> <p>●町でもいろいろな事業に取り組んでいるが、結果が出ていない。</p>

○結婚に対する意識が低下しているのではないか。

○犬川地区で婚活事業を行っているが、今年は大塚と一緒にやることになった。地区外から適齢期の女性を連れて来ることは厳しいと思う。

○夏祭りのスタッフに若者を取り込んで出会いの場を作れないか。

○未来ビジョンの2040年人口1万2000人の根拠は。

○人口減少を食い止める施策として、毎年減っていく200人をどうやって埋めていくのか。減少速度をどの程度に抑えれば施策はうまくいったといえるのか。

○置賜地区の市町と比較して川西町の人口減少率はどうか。

○人口減少対策の内容や取り組みについて町報などで周知しているのか。

○ニセコ町の人口はどうか。

2、子育て支援のあり方について

○18歳までの医療費を無料化するのにどのくらいの予算が必要か。

○小中学校での出費が多く、給食費や制服代への助成があればありがたい。
医療費の無料化は各種の保険で対応できるのではないか

○子どもの遊び場がない。

○各種イベントを充実させる必要がある。

●犬川で婚活事業を行っている。置賜広域行政事務組合の婚活はうまくいっているようだ。

●さまざまな立場の人から手伝ってもらうことも必要だと思う。

●意見として承る

●意見として承る

未来づくり課総合戦略に掲げた人口減少対策を推進したうえで、人口移動が0（転入者=転出者）、合計特殊出生率が国の示した長期ビジョンをもとに設定した。

●人口減少対策として急務なのは、若者の定住環境を整備することで、町に住んでもらえるようにしなければならない。社会動態の転入と転出の差が0になれば成功したといえる。

●減少率が高い。以前から将来人口の予測が示されていたが、川西町は15歳以下の割合が一番少なく、それが適齢期の女性が少ないことに結び付く。

●予算説明書「町の仕事と予算」や「暮らし応援情報誌」が各世帯に配布されている。今回の意見交換会の資料のような詳細は載っていない。
北海道のニセコ町では、町の予算と事業について詳細な資料を作成し、全戸配布している。

●人口は5000人弱だが、減少に歯止めがかかり緩やかに増加している。
外国人が定住するというのは全国でも珍しい。

●試算によれば、16歳から18歳分で年間約1000万円が必要となる。

●18歳までの医療費無料化および就学時の制服や給食費の助成は、今後議会でも検討していく。

●意見として承る

●意見として承る

- 高校生の通学が不便である。通学バスの運行はできないか。
- 放課後児童クラブが犬川にはなく、大塚に1人お世話になっている。設置されている4カ所ごとに活動が違い、宿題等の勉強を見てくれるところもあり、通所している児童と通所していない児童の学力差を心配する声がある。中学校、高校進学時には地区ごとに学力格差が出るのではないかという危惧もある。実態把握をお願いしたい。

3、雇用の拡大について

- 町民が働ける場が必要ではないか。
- 企業誘致推進事業の予算が25万6000円とわずかな金額で大丈夫か。また尾長島工業団地に動きがあるか。調査をしているうちに若者がいなくなる。企業誘致を急ぐべきだ
- 企業誘致は以前からいわれており随分時間もたっている。置賜全体で取り組むべき課題でないか。

- 意見として承る
- 学力については、プライバシーの保護という問題もあり、表に出せないのではないか。実態把握の方法について研究したい。

教育総務課放課後児童クラブは、小学校児童の保護者が就労などにより昼間家庭にいない世帯で遊びや生活が可能となるよう、基本的な生活習慣の確立などを図る場として、健全な育成を目的としているもので、学習支援を主たるも目的とはしていない。町内小学校が共通で取り組んでいるテストには、「標準学力検査」と「全国学力・学習状況調査」の二つがあるが、正答率に放課後児童クラブで宿題に取り組んでいることによると思われる差異はなかった。また、放課後児童クラブの設置校と未設置校との正答率の差異も特に認められなかった。

- 企業誘致は大変難しい状況にある。6次産業の起業に期待している。
- 既決予算は、企業誘致に係る各種負担金や調査等の事務経費である。新たな企業を誘致するための働きかけや条件整備等については、具体的な進出計画等の進展に応じて、補正予算対応など適宜講じていく。
- 尾長島工業団地のミュキ精機がラインを増設し、米沢本社から60人が異動するという。明るいニュースである。
- 工業団地に隣接して、トマトハウス団地ができる。来年の最盛期には70人のパートを雇う予定だ。
- 置賜のインフラ整備となる国道113号、287号の整備を進めているが開通年次は明らかでない。企業誘致をどれくらいできるか分からないが継

- 「かわにし森のマルシェ」の状況はどうなっているのか。
- 「かわにし森のマルシェ」は町内産品だけで営業しているのか。
- 農家は6次産業になかなか踏み出せない
- 30歳代の女性が少ない。雇用を創出し定着させるといっても勤務先の選択肢がない。気に入らなければそこに会社があっても何の意味もない。
- 若い女性が地元に着しない理由の一つに自分のやりたい仕事がないということがある。また同じ仕事を都会ですれば4割くらい給料が高いという。若い人にとって何が魅力なのか、行政担当者はどう分析しているのか。
- 現農政に不満があるのではないか。将来に希望が持てない農業では人口減少が止まらない。
- インターネットの普及で、働く場所はどこでもよくなっている。ネット環境の充実を図ってほしい。

4、高齢者の生活環境対策について

- 高齢者世帯への養子縁組等も必要なのではないか。
- 車を使えない高齢者が増えるので、移動販売車等の施策が必要でないか。
- 高齢者世帯の除雪が大変である。
- 移住者からの感想を聞くと雪の多さに驚いたという。移住者に優しい配慮が必要と思われる。

続して進めていきたい。

- 開店から7月末日までで販売額2682万円、来客数2万9858人で、売り上げ目標に届いていない。
- 町外産品も販売している。どなたでも出荷できるので協力してほしい。
- 「かわにし森のマルシェ」は町民が起業する場ととらえて頑張してほしい。
- 厳しい指摘である。議会でも情報収集が不十分だと思っている。労働力の流動化の中身の精査ができていない。現状を捉え問題を明らかにしなければならない。
- 若い女性が少ないのは働く場所がないことはもちろんだが、女性の働ける縫製業やサービス業が少なくなっているためではないか。たとえば人口が増えている東根には女性型の企業があるし、農業も米一辺倒でなく果樹などがあり、女性が取り組みやすい農業形態になっている。
- 意見として承る
- 意見として承る
- 意見として承る
- 意見として承る
- 除雪は助成制度を活用していただきたい。

地域整備課

- ・除雪アダプト推進事業

自治会が降雪期における自治会内の生活道路の確保のために自主的に行う機械除雪を住民に依頼し、費用を支払ったものに対して同自治会に補助をするもの。(支給要件あり)

○アダプト事業で全額支援とならなかった。改善してほしい。

○除雪の助成金等知らないことがあるのでPRをお願いしたい。

○デマンドタクシーは前日まで予約を入れなければならない。また往復をお願いすると1時間ごとに待たなくてはならず使い勝手が悪い。飯豊町では、当日30分前に手配が可能ということだ。また飯豊町は社会福祉協議会が運営しているようだ。高齢者の使いやすいようにしてほしい。

○シルバー人材センターで、農村環境改善センターの指定管理を打診されている。具体化したら支援をお願いしたい。

その他

○スクールバスが更新時期を迎えているのではないかと

○地域おこし協力隊は3年任期だがその後定住していただくための支援は

まちづくり課

- ・地域一斉除排雪等推進事業

自治会および町民が主となり組織するボランティア団体等が町内の自力による除雪が困難な世帯等に対する除雪作業ならびに生活圏内に堆積した雪等の排雪作業を行った場合に補助する事業。(支給要件あり)

健康福祉課

- ・高齢者等雪下ろし等援助事業

65歳以上の高齢者世帯及び心身障害者世帯に対し、雪下ろし等の除雪作業の経費を支援する事業。(山間部3回、平野部2回)

地域整備課

距離によって上限額が定められていることから、全額支援とはなかった。

- 町では支援策について記載した「くらし応援情報誌」を全戸配布している。議会では、町が支援するすべての事業を網羅した「生活応援ガイドブック(仮称)」の作成を政策提言している。もっと見やすい資料となるよう求めていく。

- 置賜広域で利用できる形にしたいが、障害があって実現しない。希望する時間に利用できることが理想だが、デマンドタクシーには限界がある。改善できることがあれば提言していきたい。

- 要望として承る

教育総務課 これまで予算の範囲内で車両の維持管理に努めてきた。購入時期、走行距離等を勘案して、計画的に更新を検討する。

まちづくり課 任期中にはスキルアップ補助金として15万円。任期終了後は

<p>あるか。</p> <p>○自治会事業に対して地区からの支援はあるが町でも助成してほしい。</p> <p>○町からの配布物が多すぎる。</p>	<p>起業・就業する場合上限100万円、町内に定住する場合は上限50万円を支援する。</p> <p>●意見として承る。</p> <p>●意見として承る。</p>
---	--